

## 秋田地連第50回定期大会

# 減車・日車営収が向上で賃金改善の条件整う 積極的に春闘を闘い 更なる組織拡大

(秋田地連)

2012年10月29日 秋田市内で秋田地方連合会の第50回定期大会を開きました。

全自交秋田地方連合会は10月29日に秋田市内で、第50回定期大会を開き、向こう一年間の運動方針を決定し、新たな役員体制を確立しました。大会には全県から代議員他48名が出席し、全自交労連の松永書記長、東北地連の森委員長をはじめ、連合、交運労協、平和労組会議、社民党県連など9名の来賓が激励に駆けつけました。

挨拶に立った石川委員長は「一定の成果があったとは言え、特措法の限界も明らかでありタクシー事業法の早期成立で生活改善が実感できる基盤を作ろう」と訴えるとともに、組織拡大に向けた奮闘を参加者に呼びかけました。

来賓として出席した全自交労連の松永書記長は「事業法の成立に一丸となって奮闘しよう」と呼びかけるとともに、新潟のカルテル問題における公取委の対応を厳しく批判しました。



東北地連の森委員長は震災後の支援に感謝するとともに、復興に向けた被災地の努力を具体的に紹介し協力を呼びかけました。

方針提案した高橋書記長は減車の進展で日車営収が向上している状況を示し「賃金改善の条件はある積極的に春闘を闘おう」と訴えました。また、自主管理に入った秋南労組と秋田港交通労組の奮闘を紹介し、6社まで拡大した自主管理職場

においても組合の力で労働条件向上を実現することを呼びかけました。減車・法令違反一掃・組織拡大を柱とする新年度の運動方針を満場一致で採択しました。また、本部の書記次長に高橋書記長が転出したことに伴い役員変更を行い、新たに鈴木書記長、進藤書記次長を選出しました。最後に石川委員長の力強い団結ガンバローを行い終了しました。